

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2021年 8月 24日

事業所名 PARC(パルク)ふくしま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	おもちゃの箱に写真を添付するなど、おもちゃを視覚的にお片付けしやすくしている。	構造化については、空間・時間・作業を視覚的に分かりやすく提示できるツールがあれば、お子様にとってそれぞれを説明しやすくなると感じる。 エントランスに入る部分の段差のあたりが自転車が止まってしまうと入りにくくなっている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		事業所として効率化できるように業務改善に当たっている。	業務改善のための話し合いの時間をさらに増やしていく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		パルクでは毎回、保護者の方とお話しが出来るため、それぞれのニーズをその場で伺い、取り入れられそうなところは出来るだけ療育にも教室運営にも取り入れるようにしている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			今回は初回評価。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			現在は社内の勉強会のみのため、今後はパルクふくしまのスタッフ同士でも勉強会を開き、今後のより良い療育に繋げていきたい。
	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		多職種がいる強みを生かしながら、ご利用者のニーズも踏まえて連携を取りながら支援計画書を作成するようにしている。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	△			個々の判断基準となる部分もある。今後は共通認識を高める勉強会も必要と感じる。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		どなたが見て頂いても分かりやすく、具体的な支援方法が伝わる計画書になるように心掛けている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		療育の中に本人のニーズも入れていく事で、楽しみながら保護者の方がお子様に頑張ってほしいと思われている部分をカバーしていけるように支援をしていく事を心掛けている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		それぞれのお子様の成長に合わせてチームでプログラムの相談も行っている。必要に応じて療法士とも連携を取りながらプログラムを考えている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			お子様によっては好きな物や遊びへのこだわりがある場合もあるため、プログラムが偏りがちなお子様もいる。今後も、お子様のニーズを中心として考えていきながらも、出来る限り様々な可能性の扉を開いて頂けるような提案を行えるように意識して取り組んでいく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		お子様のニーズも踏まえながら、お友達のやっている事に興味を持てたときに、スタッフも合わせて小集団遊びが出来るようには声掛けを行っている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝ミーティングを行い、その日の大まかな役割分担を行うようにしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		サービス提供をしたその日中では出来ていないが、翌朝のミーティングで前日來所した児童の様子や気付きの共有と保護者の方のご相談内容の共有を行うようにしている。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		計画書期限の満了での更新だけでなく、入園など新たな環境の変化に応じてモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		保護者の方のニーズに合わせて支援会議に参加させて頂いている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		区役所の保健福祉課や相談支援事業所と連携を取れている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		実際に園長先生や担任の先生に担当のお子様がパルクで過ごす様子をご見学頂きながら、双方の様子を共有する事もある。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○	訪問看護利用児には就学前相談に同行させていただいたケースもある。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて連携を取っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナにて実施が難しい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
右との連携	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		帰りのふり返りの際にお子様頑張ったところや成長されたところを、実際に療育に入ったスタッフからフィードバックを行う事で保護者の方にもご理解を頂けている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		子どもの発達段階やお子様の成長過程を踏まえながら、保護者にご理解いただけるように支援を行っている。大人の視点だけではなく、お子様自身の視点も忘れずに伝える事で、親子の相互理解をしていただけるように心掛けている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		ご契約の際に書面を見ながらご説明をさせて頂いている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		毎回きちんと説明を行った上で、同意のサインを頂いている。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		毎週保護者の方にもスタッフが1名付き、お話を伺うようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	例年は保護者の交流の場として、茶話会を行っていた。	コロナで開催中止となっている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		お子様や保護者の方のニーズには可能な範囲で対応するようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月、会報誌として“パークだより”を発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		ご自宅で作れる視覚支援ツールや、パークでお子様自信が納得して行動できたツールや方法を共有していきながら、ご家庭でも実践していただくようにはしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナの為行えていない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		年に2回消防訓練を行っている。また社内においても各マニュアルの常備と周知をしている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	△			アセスメント項目にはなく、個々で聞き取りを行っている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		アセスメント項目にない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	△			共有は行えているが、今後事例集の作成も必要だと感じる。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。